

今日、世界では依然として世界で12億人もの人々が「極度な貧困」状況にあるなど、国際社会において開発は大きなテーマとなっている。そして途上国の開発を支援するため、開発援助（あるいは開発協力）が実施されてきた。日本についていえば、コロンボ・プラン加入（1954年）から始まった政府開発援助（ODA）は60周年を迎えた。しかし、開発援助は、特に近年では多様な当事者間のパートナーシップが強調されるもの、つねに援助を「与える側」と「もらう側」の間の「非対称性」をともなってきた。また途上国の開発を「主たる目的」（ODAの定義の一つ）とする建前がある一方で、多かれ少なかれ開発援助は「与える側」の政治・外交的目的や通商目的の手段でもあるのが現実であろう。

近年、開発援助は以下のようなチャレンジに直面している。第一に開発援助の実施アクターの多様化である。伝統的な二国間・多国間の援助アクターに加え、途上国でありながら近年の急速な経済発展により援助を拡大させている新興ドナー諸国—中国、インド、ブラジル、アラブ産油国など—も公的なドナーとして台頭している。またNGOあるいは市民社会組織（CSO）はますます役割を拡大させる一方、民間企業の役割やODAにおける官民連携（Private-Public Partnership = PPP）も注目されている。第二に新興ドナー諸国は、二国間ODAの政策協調の場であったOECDの開発援助委員会（DAC）の規範やルールを受け入れず、またBRICs Bank構想などこれまでの多国間援助機関とは異なる規範にもとづく多国間援助を模索しはじめている。これは国際開発や開発援助についての国際協調をよりむずかしくする可能性を持つ。第三に世界のさまざまな地域で紛争が発生し、あるいは平和構築の活動が行われる中で、平和構築の一環としての開発への支援のあり方も議論されている。そして何よりも第四に、開発援助を通じて支援すべき開発とはいかにあるべきか、議論は続いている。新興ドナー諸国などいくつかの途上国の経済発展を見せる一方で、依然としてアフリカ諸国をはじめとした後発開発途上国(LDCs)は社会・経済的に厳しい状況に置かれ、途上国が直面する課題は多様化している。また、環境、人権、ジェンダーなどのイシューとの関連性もますます強まっている。2015年は国連のミレニアム開発目標(MDGs)の達成期限であり、また2012年の国連持続可能な開発会議(リオ+20会議)で作成が決定された持続可能な開発目標(SDGs)とともに世界の新しい開発と環境に関する目標を決める年でもあり、開発のあり方、いかに「貧困を終わらせる」(新目標の一つになるといわれる)のかに関する議論は活発化しよう。

本特集号では、開発援助をめぐる諸問題を多様な視点から考えたい。援助アクターの多様化、開発援助をめぐるアクター間の協調やパートナーシップのあり方、他のイシューとのリンク、地域研究の視点から途上国のフィールドにおける課題など多様なテーマの論文を掲載したい。開発援助については、実践事例の紹介はさまざまな学会で行われてきたが、本特集号では、何らかの理論的知見を持つ論文も歓迎したい。開発援助というテーマに関しては、日本のODA大綱の改定、Post 2015議論など進行中となることも多いので、各執筆

(希望) 者のテーマに応じて最新の動向を把握するようにお願いいたします。

論文の応募を希望される会員は、論文のテーマと要旨を 600~800 字程度にまとめたものを、自宅の住所・電話・FAX・メールアドレスを明記した上で、2015 年 8 月 31 日までに編集責任者へメールでお送りください。本特集号の全体構成などを総合的に検討した上で、執筆をお願いする方には 2015 年 10 月 5 日までにご連絡いたします。なお、論文の最終提出の締め切りは、2016 年 3 月 31 日、論文の分量は注を含めて 2 万字以内とします。また、最終的な掲載の可否は論文提出後に査読を行った上で決定しますので、この点を含めてご了承ください。

執筆要領については学会ホームページをご参照ください。要領を遵守してのご執筆をお願いいたします。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お申し込みやお問い合わせは、以下の編集責任者までお願いいたします。

《編集責任者》 高柳彰夫

《連絡先》 〒245-8650 横浜市泉区緑園 4-5-3

フェリス女学院大学国際交流学部

電話： 045-812-8975 (研究室直通)

FAX: 045-812-8283

E-mail: takayanagi186★gmail.com

(★を@に置き換えてください)